長洲町立長洲小学校　校長便り　№１５

みんなの居場所

裏面の話題

みんなの居場所の裏面は、小学生にとって必要ではないかと思う問題、漢字、諺、慣用句等々を載せていきます。ご家族の団らんの話題にしてみてください。会話が広がります。

令和４年６月１０日(金)

お便りを頂きました　Ｉさんより

いつも（みんなの居場所を）楽しく読ませて頂いています。「頭の体操」３年生の娘は初めの頃ちんぷんかんぷんでしたが、最近は「私にもできる問題が出た！」と言って一生懸命に習い始めたばかりの辞書を引き、楽しそうに慣用句を調べています。校長先生からの素晴らしいご褒美を大切に集めている娘！　１年生の弟が「い～な？…」と呟いています。ありがとうございます。

雑感　～やっぱり読書～

ジメジメとした梅雨ですが、私はポジティブにとらえます。梅雨の時期は読書ができますから。「晴耕雨読」外出できなければ読書、良いものですよ。読書は大変重要です。その理由は、「活字から場面を想像することができる（思考力が育つ）」、「文章に対する自分の考えをもつことができる（判断力）」、「優れた文章表現ができるようになる（表現力）」の三つが身に付くからです。

さて、数年前、ニュースを見ていた時のこと、図書館におけるマナーの悪さが話題になっていました。本の返却が遅れること、落書き、ページを破って持っていくこと等々、私には信じられないようなことが起きていました。比較的読書量が多い学生時代を過ごしたので図書館にはよく通いましたが、それでも必要性が高まるとお金を出して買うようにしていました。図書館で借りれば良いと言ってしまえば元も子もないのですが、何度も読み返すことで、しっかり自分のものになると思うからです。更には、手元に置いておくことで、その時々で感じるものにも違いが出るからです。

ちなみに、私は数年前の通勤中のバス、電車の中だけで１年間に７０冊ほどの本を読みました。毎日４０分ほどの時間ですが、集中すれば読めるのです。そして、私が何度も読み返すバイブル的な本、というよりも自分を戒めるために手元に置いておく本も幾つかあります。みなさんにはそんな本ってありますか？

《雑感》責任が人を育てる

登校班や委員会活動の６年生の姿を見て思うことがあります。下学年の存在が、子どもの成長を支えていると。２年生から６年生は１年生が楽しく生活を送れるように、また６年生は最高学年として学校をリードする姿を後輩に見せよう、伝統を伝えようと頑張っているのでしょう。

ある本を読んでいたら、こんなフレーズがありました。「職業〇〇はその道に入った人間をそのように造って行く。そういうものだ。」なるほど、責任を与えることで人間は変われるということです。子どもたちは、１年生の面倒を見たいと思って仕事をしている人もいれば、与えられた仕事だからやっている人もいます。両者ともに、その立場に置かれたからこそ、やりがい（自己有用感）を感じ、頑張っているのです。私達大人もそうですね。与えられた責任は、それを果たそうと必死で努力して、何とか結果を出していくのです。私もこれまで、上司の命令に対し間違いではないかと感じた時は必ず質問していました。そして職務上の命令にはまず「はい。」の返事からと肝に銘じていました。そして結果を出そうと努力してきました。

保護者の皆様は如何でしょうか。子ども達は私達大人の姿を見て成長していきます。子どもたちに対し恥ずかしくないよう、責任を果たせているか自戒する必要があります。

最近、挨拶ができる人と苦手な人とでとても差があるように思います。今後は、高学年の皆さんには是非お手本となるような挨拶をして欲しいと願います。挨拶は人と人とを繋ぐ基本中の基本です。社会に出ても絶対に必要です。本校において、低学年の子ども達が高学年のお兄さんお姉さんに憧れ、「自分もそうありたい」と願い、良き伝統が続いていくことを願っています。

シリーズ「自分を語る」＃１５

放課後…。なかなかいい響きですね～。保護者の皆様にも色々な思い出があるのではないでしょうか。私にも小、中、高と、多くの思い出があります。今私は小学校勤務なので、まずは小学校の頃を思い出してみました。子ども達を見守り支える社会的な力も高かった時代です。多少の道草も許されるし、帰宅が遅くなることも多かったように思います。そんな時代ですから、用もないのに放課後だらだらと教室に残る訳です。そして他愛のない話を延々と続けるんですが、これが何とも楽しかったのです。そして、高学年ともなると「好きな人」の話とかで盛り上がりまして、そこに先生が現れて叱られて、叱られた後は先生も話に参加して、先生のよもやま話を聞くこともありました。ほんと、どうでもいい下らない話なのですが、先生と勉強以外で話をすると結構楽しいんですよね。だから私は小学校の時の勉強の話はあまり覚えてないんです。心の底から楽しいなぁと思っていたので、６年生のときなんか「あ～ぁ、このまま小学生だったらよかとに…」なんて、本気で思っていましたから。そんな楽しい小学校生活を、子ども達に味わわせてあげたい！　と思っても、最近はなかなか放課後の時間なんてありません。学校では会議や部活、子ども達は家に帰れば塾や習い事等で忙しく動き回っています。私達が小学校の頃は、こうじゃありませんでした。社会が急激に変化してしまって、何をするにしても危険が伴ってしまって、こう、何か「世知辛い」世の中になってしまいましたね。でも、諦めてはいけません。子ども達との思い出作りは。それが楽しかったから教師を目指した私ですから。

小学校の高学年というと色々なことに興味をもちつつ、しかしながら客観的な判断はまだしっかりとはできない、そんな時代でしょうか。私、勉強は嫌いでした。しなければならないということは理解できるのですが、なかなか実践できないでいました。そんな中、５年生の２学期の通知表はすごい結果でした。何と、５段階評価で１～５全てがあるじゃありませんか!!　これには自分でもびっくりしました。５は体育と図工でした。１は社会でした。算数は２、国語は３…、他は忘れちゃいましたね。母はこの通知表を見て、神棚にお供え物をしたとかしないとか…。私は呑気なもので、「別にいいや…」って思っていました。ある日父がこう言いました。「敦は、社会は好かんとか？」「いや、好き。」と答えると、「ならよか。」と呟いた後、会話は途切れました。好きならばまだ伸びる余地ありと考えたのでしょうか。それとも諦めだったのでしょうか…。真相は謎です。でも、たまに今でも言われます。「よくそれで先生やってるねぇ。」そう捉えるのではなく、「人間やればできる。」と捉えてほしいですね。　（つづく）

※　「みんなの居場所」に関するご意見ご感想をお寄せください。（「みんなの居場所」への掲載の　可　・　不可　）